

学校名 南城市立船越小学校	連絡先 TEL : 098-949-7108 e-mail : funasho-kyoutou@edu.city.nanjo.okinawa.jp
-------------------------	---

1 実践事項

沖縄県教育委員会研究指定校

「体育・スポーツに関する教育実践校（2年次）」の取り組み

研究テーマ「ー運動の楽しさを味わい、自己や集団の課題に進んで取り組む児童の育成ー
～自己決定の場や対話的な活動を取り入れた体育学習を通して～

2 実践内容

- ①研究テーマの実現に向けた理論と実践の研究
- ②地域コーディネーターとの連携

3 説明資料

- ①研究テーマの実現に向けた理論と実践の研究について

本校では、令和4年より「体育・スポーツに関する教育実践校」として体育学習の研究に取り組んでいる。1年次は、児童に運動の楽しさや喜びを味わわせることを目標とし、教材・教具の工夫を行ったり、授業の中で使用する道具や課題及び練習の場を自己決定する機会を設けたりしてきた。教材・教具の工夫を行うことで、その運動が持つ特性の面白さを児童が味わうことができ、意欲的に体育学習に取り組む児童が増えてきた。また、道具や課題及び練習の場を自己決定できる機会を設けたことで、児童が自分の力に応じた活動に安心して取り組むことができた。一方、児童が形成した課題は自己や集団の実態に合っているか、対話的な活動は効果的に行われているか等の疑問が生じた。そこで本年度（2年次）は、研究テーマを「ー運動の楽しさを味わい、自己や集団の課題に進んで取り組む児童の育成ー」サブテーマを～自己決定の場や対話的な活動を取り入れた体育学習を通して～と設定し、以下の計画（表1）で研究を進めてきた。

表1 令和5年度校内研修計画（一部）

日付	内容	担当・講師及び指導助言
4/5	令和5年度の校内研についての共通理解	研究主任
4/28	令和5年度の校内研についての共通理解	研究主任
6/30	校内研代表授業Ⅰ「ボール運動」	沖縄大学教授 嘉数 健悟
7/26	理論研修	豊崎小学校教諭 喜名 正人
7/28	小学校体育実技指導者講習会	日本体育大学教授 白旗 和也
11/10	校内研代表授業Ⅱ「ボール運動」	島尻教育事務所指導主事 上原 立誠
11/22	2年次公開授業及び研究報告会「ゲーム」	沖縄大学教授 嘉数 健悟
12/15	校内研代表授業Ⅲ「保健」	中城小学校教諭 照屋 保（体育科指導コーディネーター）
1/31	体育専科公開授業「ボール運動」	沖縄県保健体育課

(1) 体育学習の進め方について全職員で共通理解を図る

1学期スタート前に、全職員で体育学習の進め方について共通理解を図った。体育学習のスタイルを確立することで、体育の指導に不安のある先生でも、学習規律やタイムマネジメントを意識しながら授業づくりを行うことができ、また各単元や領域で大きく授業の流れが変わることがないため、児童が見通しを持って学習に取り組むことができる。本校では、以下(図1)の内容に留意しながら、体育学習を進めている。

- 教師の指示、言葉かけは明るく短く → 「教師の動き」「表情」「言葉かけ」で雰囲気を作る
- 児童に「学習の見通し」をもたせる → 何のための活動か動きか等「問い」を持たせながら授業を進める
- BGMの活用 → 気持ちを高める、躍動感、音楽でタイムマネジメント行う
- 肯定的な言葉かけ(称賛、承認、励まし) → その子なりの変容を見つける、価値づけ
- 体育着、赤白帽着用の徹底(ユニフォーム)
- 「体育着の上着はズボンに入れる」「帽子はきちんとかぶる」 → けがの防止、物を大切にすることを育む
役割の視覚化、到達状況の把握
- 体育着、赤白帽を忘れたことを理由に見学させることはしない → 学習機会の保障
(ただし、忘れた理由は必ず教師に伝える)
- 見学する児童には「見学カード」を記入させ、思考力・判断力を育てる
(可能な範囲で場づくりや補助等の機会を与える)

る)

【授業の流れ】

- ①集合・あいさつ・準備運動
- ②パワーアップタイム(基礎感覚作りの運動)
- ③めあての確認
- ④チャレンジタイム1(活動1) or ゲーム1
- ⑤キラリタイム(学びの共有) or チームタイム(対話的な活動)
- ⑥チャレンジタイム2(活動2) or ゲーム2
- ⑦振り返り・あいさつ

図1 体育学習の進め方

(2) 授業力向上を目指した研究授業の実施

本年度は、領域を「ゲーム」「ボール運動」「保健」に限定し、5本の研究授業を実施した。低学年部、中学年部、高学年部と3つの分科会を組織し、各分科会で授業づくりを進められるように体制を築いた。夏季休業中の校内研修では、体育科における「指導と評価の計画」の作成手順について全職員で確認した後、Googleドキュメントの共同編集機能を活用し、指導案の一部分(目指す児童の姿、単元目標、単元の評価規準、評価規準に合わせた具体的な児童の姿及び評価方法等)を作成した(図2)。



図2 分科会で単元指導計画を作成

研究授業に向けて、授業づくり及び指導案作成をするに辺り、以下の内容を全学年の共通実践事項として定めた。

- 教材として扱う運動の特性を明確にすること
- アンケートを実施し児童の実態に応じた授業づくりをすること
- 安全対策を十分に行うこと
- その運動を楽しむための最低限の技能を保障すること
- 自己決定する場面を設けること
- 自己や集団の課題形成に向けて分析ツールを開発すること
- 課題解決に向けて思考を可視化するためのツールを活用すること
- フェアプレーの行為を価値付けること
- 振り返りの視点を明確にすること



第5 学年学習指導案
「ソフトバレーボール」



第6 学年学習指導案
「ソフトボール」



第2 学年学習指導案
「ながれぼしゲーム」

(3) 授業の様子

パワーアップタイム (基礎感覚づくり)



タオルを使って腕振りの動きを身につける
(5年ソフトバレーボール)



的を狙って左右に打ち分ける
(6年ソフトボール)



柔らかいボールを使ってキャッチボール
(6年ソフトボール)



ゲームを想定してチームでボールの投げ合い
(2年ながれぼしゲーム)

チームタイム (分析結果をもとに作戦を考える)



ジャムボードを活用し動きの確認をする
(5年ソフトバレーボール)



電子黒板で児童の考えを全体で共有する
(5年ソフトバレーボール)



ゲーム記録から作戦を考える
(6年ソフトボール)



少人数で作戦について話し合う
(2年ながれぼしゲーム)

ゲーム (チームタイムで話し合ったことを後半のゲームに活かす)



よくボールが落とされている場所を守る
(5年ソフトバレーボール)



打者に合わせて守り方を変える
(6年ソフトボール)



前後に並んで守る
(2年ながれぼしゲーム)



はじめとおわりのあいさつは必ず行う
(2年ながれぼしゲーム)

②南城市地域コーディネーターとの連携について

(1) 外部講師を活用したクラブ活動

本校では、年間10回程度クラブ活動の時間を設定しており、地域の方が講師となり活動しているクラブも複数ある。運動系のクラブは、屋外スポーツクラブ、屋内スポーツクラブ、一輪車クラブとあるが、今年度は屋外スポーツ活動の一つとして陸上競技を取り入れた。知念地区では、例年10月に知念地区小学生陸上競技選手権大会が開催されるため、大会自体を屋外スポーツクラブの成果を表現する場として設定した。また、専門的な指導を行える人材がいなか地域コーディネーターに相談し、陸上競技の指導者を探してもらった。

クラブ活動では、講師の方から速く走る為に必要な体の動かし方や練習メニューなどを教わり、リラックスして楽しみながら運動に励む児童の姿が見られた(図3)。



図3 クラブ活動の様子

(2) 教職員を対象とした実技研修会の開催

教職員を対象にした研修会にも南城市より講師の方を派遣していただき、陸上競技の指導方法について教わった(図4)。研修会に参加した先生方から「学校で子ども達に還元したい」「専門的な知識を学べて貴重な経験ができた」「次年度も是非開催して欲しい」という感想があった。また、10月の大会直前には研修会でサポートして下さった講師の方を招き、知念地区の児童を対象とした陸上教室を開催、直接児童に指導をしていただいた。



図4 知念地区小学校体育連盟 実技研修会の様子

4 成果と課題

R5 新体力テストの結果

	学年	握力	上体起	体前屈	反復横	シャトルラン	50m 走	立幅跳	ソフト投げ
男子	1年	△48.6	△49.1	◎57.0	◎51.4	◎53.3	△45.7	◎59.9	◎59.7
	2年	△48.9	◎50.9	◎63.3	△49.6	△49.9	△44.1	◎55.9	◎59.0
	3年	△47.4	◎50.7	◎52.8	△40.3	△46.8	△45.5	◎54.4	◎55.2
	4年	△46.3	△45.0	◎55.1	△49.7	◎50.9	△40.9	◎54.3	○50.0
	5年	△43.5	△49.1	◎55.3	◎51.8	◎50.3	△45.1	◎51.0	◎54.1
	6年	△43.6	△49.6	△49.2	△47.4	△48.4	△47.7	◎53.6	△49.7
女子	1年	△45.0	△48.7	◎51.3	△49.1	◎54.7	△40.0	◎56.4	◎52.9
	2年	△45.7	△47.1	◎52.0	◎51.0	△49.7	△43.1	◎54.0	◎52.9
	3年	△44.1	△46.7	◎52.4	△42.4	△43.3	△40.8	◎52.6	◎51.0
	4年	△45.8	◎50.1	◎50.4	△47.2	◎51.7	△45.3	◎55.8	◎51.3
	5年	△48.2	△49.2	◎52.4	△49.9	◎52.8	△40.0	◎55.0	◎53.0
	6年	△46.0	◎51.4	◎51.6	△48.6	△49.7	△47.5	◎55.4	△49.6

◎全国平均より上、○平均同値、△平均未満

全国平均以上の項目数 ※全96項目（8種目×6学年×2性別）

年 度	R1年度	R3年度	R4年度	R5年度
項 目 数	25	27	23	44
達 成 率	26%	28%	24%	46%

全国体力、運動能力調査体力合計得点（小学5年生） T得点（全国比）

年 度	R1年度	R3年度	R4年度	R5年度
男 子	45.3	48.0	46.1	49.8
女 子	42.1	44.8	47.4	49.6

※経年比較

	新体力テストの結果より	研究全体を通して
成果	<ul style="list-style-type: none"> ○20M シャトルランの値が全国平均値を上回っている学年がある（過去数年間全ての学年で全国平均を下回っていた。） ○全国平均以上の項目数が前年度より2倍近く増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ボール運動領域の授業実践を通して、児童自らルール工夫を提案したり、チームの特徴に応じて用具や作戦を選択したりする姿が見えた。 ○分析ツールを活用することで、データ（根拠）をもとに課題を設定することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> △握力、50M 走の値が全学年全国平均値を下回っている。 △体力合計得点（小学5年生）が全国比をまだ下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動領域と保健領域を関連づけた指導計画が不十分である。 ○全校体制で行う体育的活動の推進が不十分である。